

---

# 殺人犯の妹

ゆきのん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

殺人犯の妹

### 【Nコード】

N6410T

### 【作者名】

ゆきのん

### 【あらすじ】

もともとあらすじのようなものであらすじを書くという矛盾は不可能です。

彼女の兄は有名な人殺しである。

3人の人間を殺して、10年の間逃げ回った極悪犯。

それが世間における彼女の兄という存在のイメージだった。

事実に対していくつもの真実が存在するように、これもまた真実のひとつの姿でしかなかったのだが。

彼女の兄は10年の時を逃げ回ったものの、ある日突然自首した。

淡々と自分が犯した罪を告白し、相応の刑罰を受けると語った。

殺人に対する反省もなく、動機も語らなかった。

彼女の兄はとても重い刑罰を科せられた。

彼女は二十歳になる。

決まっていた就職を取り消されたり、住んでいたアパートを追い出されたりとさんざんな目に遭っていた。

兄の罪はまるで関係のない妹の人生まで狂わせていた。

しかし彼女は兄を恨んではいなかった。

ある日、兄の親友が尋ねてきた。

彼女も顔を知る男だった。

彼は兄から「自分の代わりに妹を守って欲しい」と言われていたと告げた。

兄が逃げ回った10年は自分が捕まった後、狂ってしまうであろう妹の人生をどうにか修正してくれる人間を捜すためのものであった。

住む場所を失いかけていた彼女は、彼について彼のアパートへ移り住んだ。

結局はそこも安住の地とは呼べなかったが。

彼女を受け入れてから、彼の部屋の電話は鳴りっぱなしだった。剥がしても剥がしても翌朝には張り紙がしてあった。

「人殺し」

「出て行け」

よくあることだと彼は笑った。

こんなことがよくあるはずがないと彼女は言ったが、漫画やドラマによくこんな描写があると彼は気にしていないようだった。

毎日毎日、根気強く張り紙を剥がしていた。

彼女が手伝おうとすると、少しだけ怒ったように「こんな汚らわしいものに触れてはダメだ」と言った。

放置しても治る病気と放置すれば悪化する病気がある。

彼女を取り巻く環境は後者に類するものであった。

彼の部屋で暮らし始めてからいくばくかの時が流れた頃、同じアパートの住人たちが集団で押しかけてきた。

様々な悪口雑言が投げつけられたが、要するに「人殺しは出て行け」と言っていた。

彼は彼女を後ろにかばって話を聞いていた。

吐き気がするほど剥き出しの憎悪を軽く受け流していた。

住人たちの語彙が尽きる頃に、彼は静かに言い返した。

「あなたたちは何を怖がっているんですか」

住人達は啞然とした。

口々に人殺し（の身内）が同じアパートに住んでいることの危険性を訴えたが、今度は言い終わらない内に彼に言い返された。

「何故一緒に暮らしている私よりもあなたの方が怯えているのですか」

幾人かはこの言葉にはっとした表情をしていた。  
住人達の言う不安が現実のものであるなら、もっとも危険な位置に  
いるのは彼である。  
彼は続けた。

「私が彼女に殺されたらどうぞ彼女を追い出してください。警察に  
突き出すのもいいでしょう。しかし、私が生きている内に彼女を侮  
辱することは許しません」

青い、静かな炎がともった言葉だった。

住人達はたじろぎ、ざわついた。

この期に及んで彼女を人殺しだと呟く者もいた。  
とうとう彼は怒鳴った。

「人殺しどもが勝手をほざくな！」

再度啞然とする住人達。

彼は無視して続けた。

「これ以上彼女に対して謂われなき罪を押しつけるのであれば、貴  
様らの方こそ人殺しであると知れ。貴様らの中傷は確実に彼女の心  
を殺していく。体を殺すことが殺人であるならば、心を殺すことも  
立派な殺人だ。貴様らがこれまでしてきたこと、忘れたとは言わせ  
ん」

彼女自身は殺人者でもなければ、そもそも犯罪者でさえない。

ただ彼女の兄が殺人者であるという事実がそこにあっただけである。

その彼女に対して彼ら住人たちが投げかけた言葉はどのようなもの

であつたか。

考えるまでもなかつた。

一人二人と項垂れて帰って行く。

彼の背に隠れた彼女は身を震わせて泣いていた。

自分でも理解出来ないほど、多くの感情が混沌として、その一部が涙となつて溢れ出ていた。

彼に促されて部屋に戻り、彼女は疲れ果てるまで泣いた。

彼は無言で隣にいた。

その夜、彼ははにかみながら手料理を振る舞つた。

それは、彼女にとって本当に久しぶりの『味のする』料理だつたという。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6410t/>

---

殺人犯の妹

2011年10月9日01時32分発行